

# 抗微生物薬適正使用の手引き 第四版 歯科編 要約版

想定される患者：成人  
対象者：全ての歯科医療従事者

抗菌薬投与の注意点：薬剤耐性菌発生リスクを減らすため、抗菌薬投与の必要性や抗菌薬ごとの薬剤耐性菌発生リスクを十分に考慮すること

## 治療

- ・局所処置が可能で全身症状を伴わない根尖性歯周組織炎
  - ・抜歯後のドライソケット

経口抗菌薬の投与は不要とされている

## 術後感染の予防

- 全身的リスク<sup>e)</sup>・局所的リスク<sup>f)</sup>を伴わない場合の以下の処置
- ・局所感染等がない単純な抜歯
  - ・歯科用インプラント埋入

抗菌薬の予防的投与は推奨されていない

<歯周組織炎・歯冠周囲炎・顎炎<sup>a)</sup>>

一般名（慣用名） 【主な商品名】	投与方法 (成人)	腎不全患者での投与量 (透析患者も含む)
アモキシシリン <sup>¶</sup> 【サワシリン】	1回250 mg 又は500 mg 1日3～4回	1回量250 mg又は500 mg 10<CCR値 <sup>c)</sup> <50の場合 1日2回 CCR値<10又は血液透析の場合 1日1回 <sup>d)</sup>
クラブラン酸/ アモキシシリン <sup>¶</sup> 【オーグメンチン】	1回125/250 mg (クラブラン酸/ アモキシシリン) <sup>b)</sup> 1日3～4回	1回量125/250 mg 10<CCR値<50 の場合 1日2回 CCR値<10又は血液透析の場合 1日1回 <sup>d)</sup>
ペニシリン系薬が使用できない場合（供給不安、アレルギー等）		
クリンダマイシン <sup>¶</sup> 【ダラシン】	1回300～600 mg 1日3回	投与量・投与間隔調整は不要

※治療効果判定：抗菌薬投与後3～7日以内

※抗菌薬の治療的投与終了の目安：炎症症状が消失して 24時間後

a) 慢性顎骨骨髓炎・薬剤関連顎骨壊死を除く

b) オーグメンチン配合錠250RSは1錠中にクラブラン酸125 mgとアモキシシリン250 mgを含有する合剤である

c) CCR値：クレアチニクリアランス値 (mL/min.)

d) 血液透析患者の透析日は透析後に投与

e) 全身的リスク：糖尿病、透析患者、ステロイド・免疫抑制薬・骨吸収抑制薬服用、放射線照射歴等

f) 局所的リスク：局所感染や骨削除等を伴う処置

<下顎埋伏智歯抜歎> ※原則、処置1時間前の単回投与

一般名（慣用名） 【主な商品名】	投与量 (成人)	備考
アモキシシリン <sup>¶</sup> 【サワシリン】	250 mg 又は 500 mg	*手術侵襲が大きい場合等に限り 術後48 時間まで1回250 mg・ 1日3回の追加投与を考慮する
クラブラン酸/ アモキシシリン <sup>¶</sup> 【オーグメンチン】	125/250 mg (クラブラン酸/ アモキシシリン) <sup>b)</sup> 1日3～4回	*手術侵襲が大きい場合等に限り 術後48 時間まで1回125/250 mg・ 1日3回の追加投与を考慮する
ペニシリン系薬が使用できない場合（供給不安、アレルギー等）		
クリンダマイシン <sup>¶</sup> 【ダラシン】	300～450 mg	*手術侵襲等が大きい場合に限り 術後48 時間まで1回300 mg・ 1日3回の追加投与を考慮する

※感染性心内膜炎の予防については本編に記載

注1 要約版に記載の詳細及び参考文献については本編参照

注2 電子添文の適応症に含まれていない場合、電子添文推奨量の上限を超える場合  
又は社会保険診療報酬支払基金審査情報提供事例に記載のある場合は「<sup>¶</sup>」を挿入

注3 本手引きはAMR対策を推進するために策定したものであって、  
医療保険各法に基づく診療に係る事項を規定するものではない

注4 抗微生物薬適正使用の手引き第四版歯科編本編に記載がある薬剤を記載している

歯科編 本編

歯科編 要約版